

日本産蜉蝣類窺見(2)

洞澤 勇

Short Notes on Japanese Ephemeroidea (2).

By ISAMU-HORASAWA.

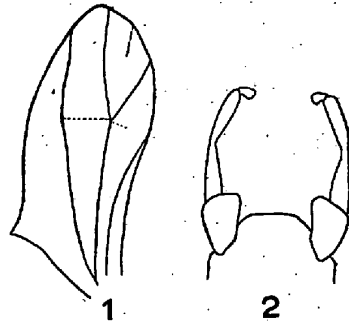
1) キソカゲロウ(新稱) *Baetis pumilus* BURMEISTER

Baetis pumilus BURMEISTER は歐洲に廣く分布してゐる種で、Norway・Portugal・Corsica・Armenia 等まで達し、英國・フランス・ドイツ・オーストリアなどの河川に多い¹⁾。又、垂直的にも可成廣い分布を示してゐて、極く平地から、餘程の高山にまで到達してゐる²⁾。

著者の本種を採集したのは長野縣木曾福島京都帝大生物研究所の側を流れてゐる小流であつた。9月4日、1928、雨の日の午後雨天をついて澤山の *Baetis* が marriage fly をしてゐた。採集標本を研べたところ。皆雄で、雌は1匹も無かつた。尙。本種の羽化期は歐洲諸國で非常に長い故、本邦でも同様であらう。

記 載

♂(アルコール標本)、頭部及び胸部は黒褐或は暗褐色、第2-6腹節は極く淡

第1圖 *Baetis pumilus*

1) 後翅 ×54. 2) 攪握器 ×54.

- 1) EATON, A. E. "A Revisional Monograph of Recent Ephemeroidea," *Trans. Linn. Soc. London, Zool.* 1883-1888.
- 2) SCHOENEMUND, E. "Eintag-fliegen oder Ephemeroptera," *Die Tierwelt Deutschlands*, 19 Teil, 1930.

(昆蟲 第5卷第3號 昭和6年(1931))

い色を帯び透明、腹部背面側方に各1對の縦走せる暗色斑發達し、尙各節後縁は暗褐色なり。第7-10腹節暗褐色、脚及び尾脚は白色、翅は透明で、翅脈は白色である。

後翅は3縦脈を具へ、第2縦脈は分岐し、第3縦脈は翅の半より後方に達してゐる。雄の攫握器は第1圖(2)に示した通りで、基節は短大、特別な結節等を具へてゐない。

體長 5.5mm(5-7mm)、翅長 5mm(4-6mm)。

2) ヤマガチカゲロウ(新稱) *Thraulius* sp. の幼蟲

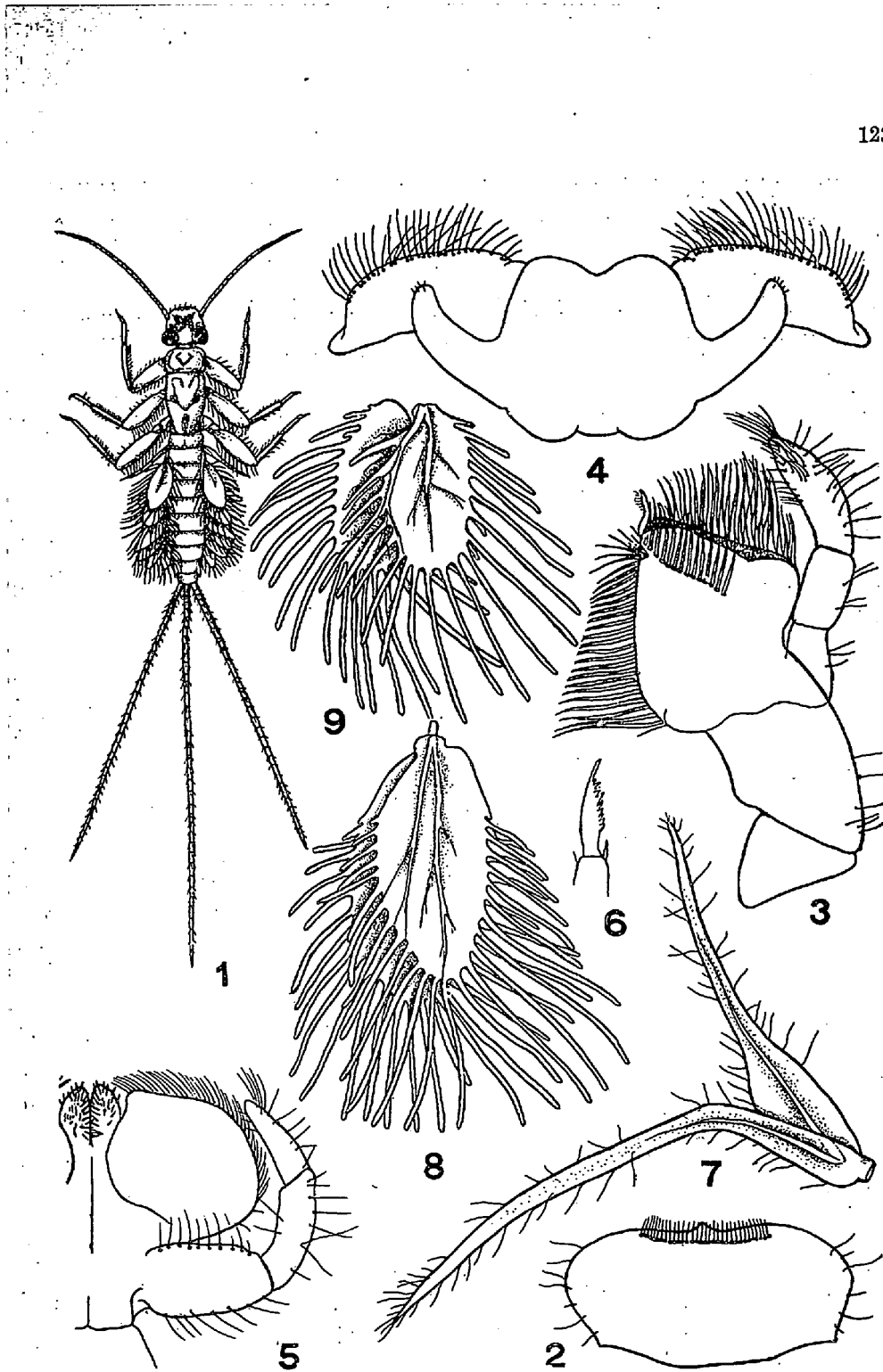
4月10日、1931、埼玉縣入間郡山口村で恩師岡田彌一郎先生が *Leptophlebiidae* に屬する1匹の幼蟲を採集せられた。唯1匹の幼蟲ではあつたが著者が調べさせて載いたところ、*Thraulius* の幼蟲で、Eaton¹⁾の發表した *T. Bellus* の幼蟲に甚だ類似してゐた。然し、全然一致するわけでもない故 *T. Bellus* とする事は少し不安であるから、*Thraulius* sp. としておき、成蟲が得られたら種名を決定する事にする。本屬のものは分布上多少面白く、Southern Europe・Indo-Malayan Region・Tropical America 等に擴つてゐて、稍熱帯性のものであらうと思ふ。南歐、即ち北に来てゐるのは Portugal から知られてゐる *Thraulius Bellus* で、Portugal は位置から云へば相當北にあたるが、氣温は余程温い。

岡田先生の採集せられた埼玉縣山口村は今度東京市の大きな貯水池にされる所で、此の谷間の平地を流れてゐる川であつた、川幅約 1.5 m、水が淀んで深く、底にはクヌギ、ナラ等の枯葉が厚く堆積してゐた。採集時の水温は 11-12°C (2P.M.)、水は酸性で、3月、1931、少し下流で吉村信吉氏の測定したものによると pH 6.4 であつた、幼蟲は堆積した枯葉の間に居たもので、此の點、*Paraleptophlebia* 等によく似た生活様式をとつてゐる。

幼蟲の記載

色彩：(アルコール漬)體は黄褐色で到る處に暗褐色域が發達してゐる。頭部黒褐色、前部に廣い淡黄色域がある。觸角は黄白色、胸部背面は黄褐色、前胸側縁に顯著な黒褐色帶發達し、前胸及び中胸の中央線に沿ひ不明瞭な淡色線が縦走してゐる。腹臑は紫灰色、尾脚は淡黄色である。

外部形態：體細長く、多少背腹に扁平である。頭部比較的大、背面から見ると亞四邊形で、隅角は圓滑である。細毛が粗生してゐる。觸角は長く中胸後端にまで達する。前胸は後胸より稍々幅廣い、各脚は粗毛及び柔毛を生じ、



第 2 圖 *Thraulid* sp. 幼蟲

1)背面より見た全景×5. 2)上唇×67. 3)下唇×67. 4)舌×67. 5)下唇×67.
6)脚の鉤爪×67. 7)第1腹鰓×35. 8)第2腹鰓×35. 9)第7腹鰓×35.

其の鉤爪は細長く、先端尖り内側に約 10 本の刺を具へてゐる。腹部は細長く、背腹に多少扁平、前部の節は幅狭く、第 6-8 節は大きい。第 7-9 節の後隅は鋭い刺に終つてゐる。腹部の腮は大きくて、第 1 腹腮は 3 叉に分れ細長い絲狀で、細毛を粗生してゐるに過ぎない。第 2-7 腹腮は卵形をした 2 葉に分れ、縁には細く長い呼吸絲を密生してゐる。此の腮の構造が非常に特異なもので外の *Leptophlebiidae* のものとは直ぐ區別出来る。尾脚は比較的長く、各節後縁は數本の粗毛を具へてゐる。中央の尾脚が最も長く、體長を優に越へてゐる。

口器は多くの *Leptophlebiidae* に似てゐる。上唇は *Paraleptophlebia* のそれの様な形であるが中央部が突出してゐる (第 2 圖, 2)。舌は少々特異な形をしてゐて、*Habroleptoides* のそれに近いが中葉の側方基部近くから上方に向つて彎曲した指狀突起を持つてゐる。